校長室だより～燦燦～ №５６９

只見川

2022.6.15

奥会津で２年間お世話になった。磐越道の会津坂下ＩＣをおりると、金山町までは一本道である。その間、ずっと只見川と一緒である。この川は、川幅がけっこう広く、水量が豊かである。流れはゆったりと緩やかであり、よく見ないと流れがあるかどうかもわからないところもある。

この川は、阿賀川と合流し、新潟県に入ると阿賀野川と名前を変え、日本海へと注ぎ込む。阿賀川は上流部分を大川とも言っている。川の名前は、その土地、土地で変わるからおもしろい。知られたところでは、信濃川（新潟県）と千曲川（長野県）だろうか。

只見川には、有名な撮影スポットが多数あり、よく本格的なカメラや三脚を持った人を見かける。朝方の只見川は、素人の私が見ても幻想的であり、写真におさめたくなる気持ちがよくわかる。雨上がりなどは、かなり水かさが増すときがある。上流では、大雨だったことがわかる。雨が降ると、川は濁る。ほとんど清流と呼べるような流れを見た記憶がない。１０月１日には、只見線が全線再開される。地元の方をはじめ、鉄道ファン、写真ファンにとっても朗報である。

三島町に早戸温泉つるの湯がある。金山町にいた２年間で、何度か行ったことがある。お湯もすばらしいが、何といっても露天風呂が秀逸である。目の前に只見川のゆったりとした流れが一面に広がる。ずっと見ていても飽きない。春は桜花爛漫、５月からは新緑の息吹、秋は錦秋絵巻の紅葉となり、得も言われぬ見事な美しさである。冬の雪もよい。鮮烈な雪景色である。こうなると、もう気分は「枕草子」の清少納言である。

この露天風呂では、何度か話しかけられた。見るからに地元の人間ではないことがわかるのだろう。どこから来たのかと必ず聞かれる。単身赴任であることを明かす。すると、いろいろな話を聞かせてもらえる。それはそれで、おもしろい。

只見川沿いのこの露天風呂は、夕方、薄暗くなってくると、これまたいい。次第に夕闇に包まれていく只見川は格別である。露天風呂から眺める薄暮の只見川が好きである。何だかさびしいのだが、ほっとするのである。

単身赴任を終え、家人につるの湯の露天風呂の話をした。決して近くはないのだが、連れて行った。すっかり気に入ってもらえた。会津坂下ＩＣをおり、柳津、三島、金山と温泉をはじめ見るべきものがある。一番は、その風景である。これは、つくり出せるものではない。その中心には只見川の存在がある。

つるの湯のお湯は何が違うのか。加水、加温、循環、ろ過、消毒剤の混入もない。源泉かけ流し１００％の天然温泉である。その証拠に、ここのお湯は飲める。飲泉である。湯治施設もある。余裕があれば、ぜひ訪れたい温泉であり露天風呂である。そして、只見川をずっと眺めていたい。